

サン・マルティン将軍胸像と日亜協会

日本アルゼンチン協会

1810年代から20年代にかけアルゼンチン、チリ、ペルーをスペインからの独立に導いた、南米解放の英雄ホセ・デ・サン・マルティン将軍の胸像が東京湾を望む横須賀の高台、防衛大学校内にあります。8月17日のサン・マルティン将軍の日(1850年同日没)など折に触れ、三国の駐日大使が献花にいらっしやいます。またアルゼンチン大統領も来日の際には度々献花し、独立と自由と民主主義に一生を捧げたラテンアメリカの父として将軍は尊ばれています。



この胸像は戦後の初代駐日アルゼンチン大使カルロス・キロス氏の離任に際し、彫刻家小島正男氏に依頼し日本国民に対するアルゼンチン永遠友好の印として制作されました。当初大使はこの胸像を東京都に寄贈する意向でしたが、東京都には外国偉人の銅像の前例がなく実現しませんでした。これを聞いた日本アルゼンチン協会初代会長内山岩太郎氏(元神奈川県知事)が尽力し、1956年3月防衛大学校へまず胸像が寄贈されました。1959年には台座が寄贈されそれまでの図書館内から図書館中庭に胸像が転置されました。1961年には玉伊吹が植樹され胸像の周りに緑の装いが添えられました。この台座と玉伊吹は、日本アルゼンチン協会が寄贈したものです。キロス大使、防衛大学校、日亜協会の三者協力で成し遂げられたサン・マルティン将軍胸像です。

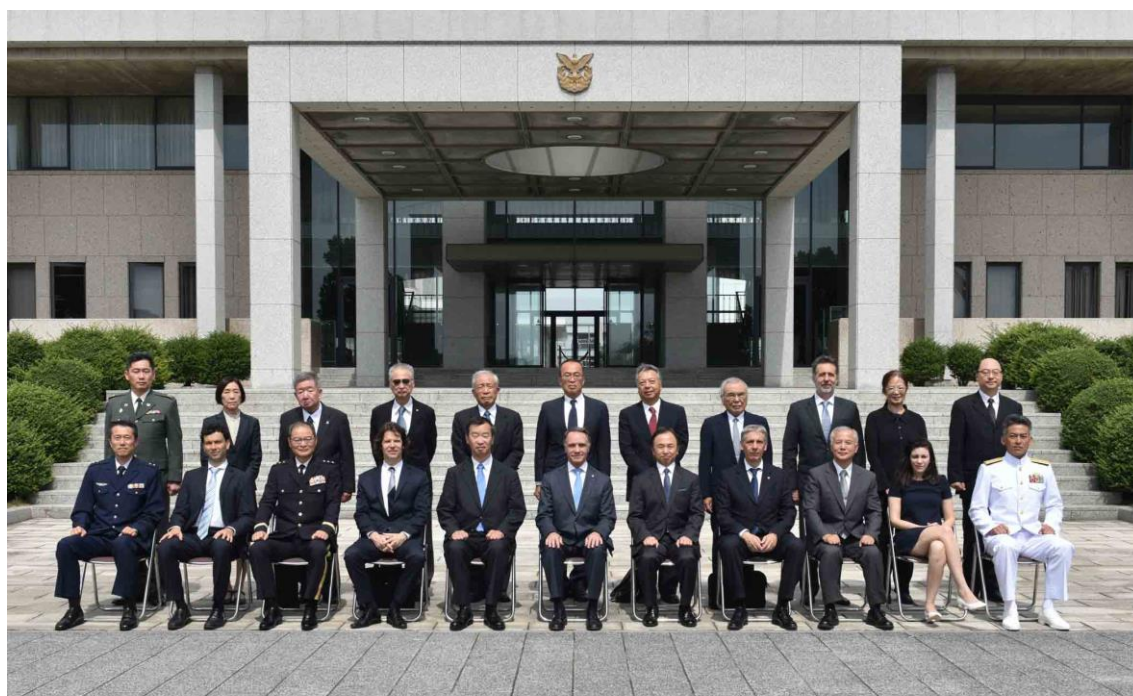
昭和43年4月発行“日本アルゼンチン協会の歩み”によると、昭和25年5月20日に日本アルゼンチン協会が設立され、間もなく初代会長に内山岩田郎が就任しました。協会第一回総会は同年10月28日に横浜市篠原町の神奈川県知事公舎での開催されました。その翌年に締結された対日平和条約、所謂サンフランシスコ講和条約の批准にいち早く動

いたのはアルゼンチン共和国でした。同条約審議のための特別臨時議会で、エルネスト・バビオ上院議員から当協会について注目すべき発言があり、「亜日国交再開のために大きな運動が現れ亜日間の友好団体が組織されている。これらの団体の中で最も権威ある団体は、前駐亜公使内山岩太郎氏が会長の日亜協会、云々」この発言が功を奏し、他国に先駆けて対日平和条約批准となりました。協会創設当初内山会長、日亜協会のこのような貢献があった事を誇らしく感じます。

内山岩田郎初代会長は、戦前ブエノスアイレス駐在領事、アルゼンチン駐在公使と2度にわたり亜国で勤務し、その後も再三訪亜し社交界、政界と深い交流をされました。戦後官選での神奈川県知事就任後、昭和22年最初の公選知事として当選し連続5期知事を務められました。ちなみに相模川をせき止めて作られた人造湖、「相模湖」を命名したのは同氏です。

また国際連合に日本が加盟するに当たっては諸外国の反対がありましたが、内山氏の貢献もあり昭和31年12月18日の総会で全会一致の承認により80番目の加盟国となりました。

サン・マルティン胸像が寄贈されて60年余り、本年は日亜修好120周年に当たり去る9月13日亜在日アルゼンチン大使館主催の献花式が行われました。



ホセ・デ・サン・マルティン将軍胸像花輪奉呈式

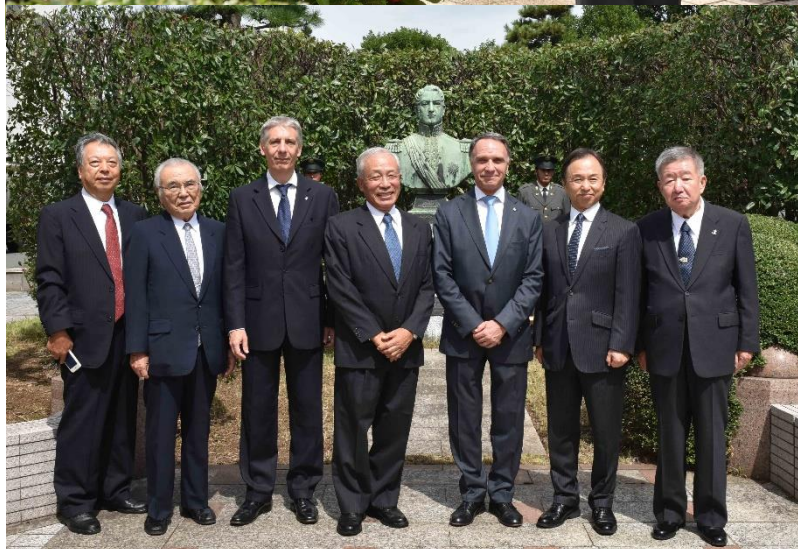
平成30年9月13日



防衛大学校より國分良成校長をはじめ多数の方々が出席され、ベロー大使、カンポイ公使以下大使館の方々、日亜協会よりは永井理事長、川上常務理事、渡部常務理事、荒尾理事、津島顧問が出席しました。



献花に向かわれる國分良成防衛大学校校長。右はベロー大使



献花式後

右から
津島顧問
國分校長
ベロー大使
永井理事長
カンポイ公使
荒尾理事
川上常務理事

防衛大学の全面的なご協力並びにご手配のお陰で滞りなく献花式は終了し、ベロー大使以下大使館側、日亜協会よりの出席者共々非常に感謝しておりました。

以上

参考文献：

- ・サン・マルティン胸像由来記：渡部芳彦元防衛大学助教授の投稿記事より
- ・日本アルゼンチン協会の歩み

写真ご提供：防衛大学校